



浦安市議会議員(無所属)

柳きいちろう議会報告

浦安レポート

2021.1 vol.29

浦安市のデジタル改革推進!



Profile

柳きいちろう(本名:柳毅一郎)
 1984年(昭和59年)東京都文京区生まれ
 2002年(平成14年)明治学院高校卒業
 2008年(平成20年)早稲田大学商学部卒業
 2008年(平成20年)株式会社商工組合中央金庫入庫
 2011年(平成23年)浦安市議会議員初当選
 2015年(平成27年)浦安市議会議員再当選(二期目)
 2019年(平成31年)浦安市議会議員再当選(三期目)
 現在、浦安市議会総務常任委員会委員長
 議会運営委員会副委員長
 議会基本条例等調査・検討特別委員会小委員会副委員長
 浦安市都市計画審議会委員

市役所のデジタル改革をすすめよう

新型コロナウイルス感染症に対応に従事しており、さまざまな職種の皆様にも、もって感謝申し上げます。また市民の皆さまには、新型コロナウイルス感染症対策にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

先般の議会では『庁舎に市民が足を運ばなくても市のサービスを受けられる、来たとしても短時間で済む仕組み』について質問を行いましたので一部抜粋とさせていただきます。その他、議会活動として『浦安市議会の力を強くする』議員個人々の活動だけでなく議会全体としての活動を目指して『柳の視点として『デジタル改革と高齢者』を記しましたのでご報告します。

市役所に行かず市のサービスを受けられる仕組みを目指して

新型コロナウイルスの感染拡大により、消極的な意味あいかからかもしれませんが、人が集まることを極力避けることが望ましい時代となりました。これまで「人を集めること」「人が集まること」に価値を置いてきたので、社会として大きな価値観の転換を迫られていると思います。市役所としても社会情勢にあわせる形で「行かなくていい、待たなくていい」という利便性向上に取り組み必要があります。

そこで、今回は市民の皆様が役所に来て行っている行政手続のオンライン化の課題や方向性について、質問させていただきました。

まず、市役所に来なくても行政手続等々のサービスを受けられるというコンセプトについて、市の考えを伺いました。

行政手続がオンライン化できない理由

担当の総務部長より『オンラインや郵送による行政手続きは、市役所に来庁する手間が省けるほか、「コロナ禍において対面での受付が避けられるなど、有効な手段である」と考えています。現在、国では、デジタル庁の創設にあたり、国、自治体のシステム統一・標準化を行うとともに、マイナンバーカードの普及やスマホによる行政手続きのオンライン化に取り組みとしています。市では、国の動向などを調査研究するなど、限られた資源を効果的、効率的に活用し、市民サービスの向上に向け取り組んでいきたいと考えています』との回答を得ました。

次に、行政手続がオンライン化できない理由として多かつたものは、申請・届出に際して、別の書類の原本確認や自署・押印が必要である、あるいは収入印紙の貼付や多くの添付書類を要するなどといった、法令等による制約が指摘されており、その中で昨今、国の行政・規制改革担当が押印について、民間からの行政手続約1万5000種類について、99%以上の手続きで押印を廃止することを明らかにするなど、改革が進められているとしております。

その為、本市における「はん

こレス」への今後の取り組みについて伺いました。

総務部長より『今後につきましては、国から示される予定のマニュアルを参考に、押印の見直しに向け、遺漏のないよう取り組んでいきたいと考えています』との回答でした。

実務上、行政手続きのオンライン申請にあたっての押印の課題につきましては、押印に代わる電子署名などが必要となることや、マイナンバーカードを利用する場合には、より一層の普及が必要とされます。

また、本市の規則をはじめ、要綱や要領等に基づき、各種申請等の際に押印が必要である旨の規定に関し、規則等の改正手続きを行う必要があるなど、色々やることはあります。その為、是非とも国から付与されるマニュアルの前にも、やるべき仕事を整理していただければと思います。

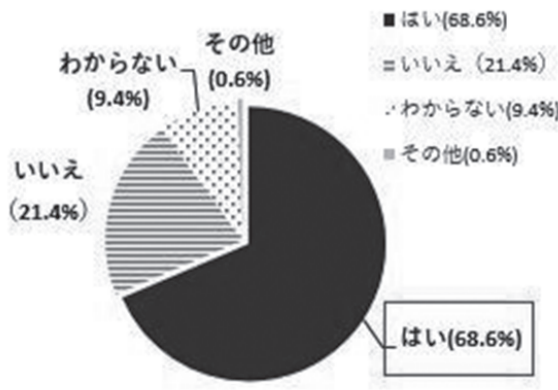
根拠となる条例や法律がなく、慣習的に続けていた押印は速やかに廃止し、規定の改正が必要なものも改正し、同時に廃止する。表彰状や許可証など、公印が必要とされる場面では押印を続ける等、行政手続きの改革を期待いたします。

ピンチをチャンスに

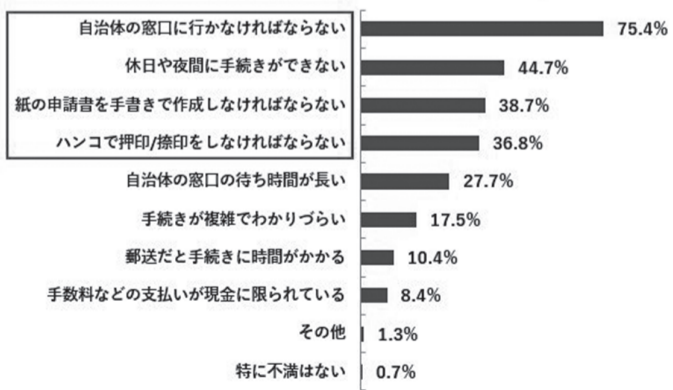
「役所仕事」と言えば、政府や地方公共団体の「非効率な仕事やり方」を象徴する言葉ですが、将来的に浦安市にお

いては「役所仕事」は褒め言葉といってもらえるような環境整備を行うよう引き続き要望して参ります。この危機を、市役所を変えるチャンスとする必要があります。

Q1 あなたは窓口や紙、ハンコによる行政手続きで不便さを感じたことはありませんか?



Q2 行政手続きで具体的にどのような不便さを感じたことがありますか? (Q1ではいと回答した方)



出典 株式会社トラストバンクアンケート調査より

出典 株式会社トラストバンクアンケート調査より



議会活動報告

浦安市議会の力を強くする！

議員個々人の活動だけでなく議会全体としての活動を目指して

全員協議会において、新型コロナウイルス感染症の影響による税収減に伴い、新年度に向けた市政運営について、議員間討議を行いました。そして、「不撓不屈のまち『浦安』苦難の先の新たな発展を見据えて」と題した提言書を取りまとめ、11月11日に議長から市長に提出しました。

内容としては、新型コロナウイルス感染症の影響による税収減に対応するため、どのような手法をもって行財政改革を行うか、といった内容となっております。(市議会HPのトップページ『全員協議会』から詳細内容は読めます。『浦安市議会』と検索願います) 通常、予算がかかる要望は

あつても、このような歳出削減を目標とした行財政改革について議員間討議を経た形で、提言書を提出することは、全国の市議会を見渡しても例がないことです。浦安市議会としては、新しい時代に相応しい市議会に向けての議会改革に取り組んでおり、一つの成果となっております。

浦安市議会の政策立案機能の強化を目指して

議会には大きく分けて監視機能と政策立案機能の二つの機能がありますが、レベルは様々でも監視については、多くの議会で機能が発揮されています。一般質問(市政全般について、市長をはじめとした執行機関に対して見解などを問う議員の質問機会)がルーティンの制度として確立されていることが要因として大きいからです。それは、一般質問にあたっては自ずと市役所の事務事業について調査、検証することとなるため、必然的に監視は果たされるからです。

それに対して、議会の政策立案機能については、多くの議会は模索しております。それは、根源的な理由として間違いを指摘する批判は容易ですが、多くのスタッフが行政に対し議員個々人が精度の高い対案を自ら示すのはなかなか難しいといつこ

とが考えられます。

議会全体として政策提言をする意義

現在、浦安市議会では、議員同士の対話をしっかりと行い、市議会で21人全員がまとまって行政へと意見を出すという試みを意識して行っております。これは、議員個人がバラバラに主張を述べるよりも、市議会議員21人全員がまとまって意見を出すとなれば、行政側への重みが全く違ってくるためです。そのため今回の冒頭に書いた提言書も、議会として集約した意思であり行政としても、簡単には無視できないものとなっております。

政策立案上の意見については、議員間で折り合いがつかないこともあります。議会としての発信力を高めることは意義のある事との認識は議員間で一致しています。議会を構成する議員の一人として、引き続きチーム議会を大切に活動を行って参ります。

柳の視点
デジタル改革と
高齢者



今回は市役所のデジタル改革について質問を行い、その内容をご報告させていただきます。今はスマホに代表されるデジタル機器が全盛期ですが、私の親世代となると「スマホ」や「インターネット」については、出来る人と出来ない人にかなり差があると感じます。

しかしながら、今後どんどん社会のデジタル化が進むにつれて「スマホが無いと不便」という場面は間違いなく増えていきます。私としては、以前から、日常に不便が多い高齢者こそ、デジタル機器やインターネットを活用するべきだと思っております。

例えば、インターネット検索はもとより、仮に足腰が弱って外出しづらくなってもネットショッピングで買い物ができる、LINEなどのメッセージアプリで、離れて暮らす子供や孫ともテレビ電話ができた、送られてくる写真で孫の成長をこまめに確認できる等、スマホがあるのかないのかで新しい生活様式への差が出ると思っています。

編集後記

昨年は新型コロナウイルスの流行が飛端となり、大変な事態となりましたが、皆様の多大なる協力を得て市政運営が行われたことを感謝申し上げます。

まだまだ完全なる終息が見えない中、日本のみならず世界を取り巻く状況も不透明であります。一方で、ワクチンの開発が進む

私も子どもが生まれたタイミングで母親にスマホをすすめました。やたら出てくる『IDとパスワード』や『アプリをインストール』などの聞き慣れない言葉乗り越え、今ではだいぶ使いこなしております。何より孫の写真や動画が送られてくるため、大変満足しているとのこと。

母親も子ども(私)が忙しいと気を使っそうですが、「スマホ」や「インターネット」が苦手な人に対し、こちらからの働きかけや聞きやすい環境づくりも必要になります。活用したいけれど、利用法について周囲に相談できる相手がいない人も多いのではないかとも思います。デジタル機器を使いこなすには、根本には人と人とのコミュニケーションが大事だと思う次第です。

など、わずかながら明るい兆しもあります。また社会心理としても、先の見えない時代だから一歩一歩着実に物事を進めることが大切な年にしようという気配も感じられます。いま出来ることをする。地に足をつけ、たゆまず進み続けることが大切な一年になるのかなと思います。

本市のこれからのまちづくりは時代と共に変化していく社会環境にも適切に対応し、市民一人一人が心豊かに幸せに暮らし続けるための対策を取る必要があります。

自身としても、激変する社会情勢に対し、市民ニーズに対する意識、コスト感覚、適正な決定を行える判断能力などを養うことに努め、与えられた議員としての職務に励む覚悟です。

柳きいちろうへの連絡はこちらから
お願いいたします。
住所 279-0013 浦安市日の出
1-3-3-1203
TEL 050-3630-8791
E-mail kiichiro.yanagi@gmail.com